

こんにちは日本共産党
泉南市議員団
です

子ども泣かせの 市立幼稚園の全園廃止計画

07年第4回議会報告

07年12月に第4回定例議会が開催されました。共産党市議員団は、一般質問で・後期高齢者医療制度の問題点・火葬場の改善・アスベスト被害者の

借金財政のツケを子どもに

昨年末、行財政改革特別委員会で「就学前保育教育のあり方検討委員会」(以下、検討委員会)の報告がありました。この中で、9つのすべて市立幼稚園を廃園にし、新たに幼稚園を建設する計画が明らかになりました。

泉南市の借金財政は、ムダな大型事業や不公正な同和行政によるものです。向井市長は、これらを見直さず、さらにイオン道路建設で借金を増やし、教育・福祉の予算を削り、公共料金を値上げしています。幼稚園の廃園計画も、財政再建プログラムの一環です。

市民・保護者を無視した計画

廃園計画を作った検討委員会には、会長に副市長、副会長に教育委員会の教育長、委員には市の部長級の幹部を当てています。検討委員会はたった2回しか開かれていません。市は保護者や市民の意向を聞かず廃園計画を決めました。

救済・市道のバリアフリー化・ゴミ有料化問題などを取り上げました。共産党が提案した「最低賃金の引き上げを求める意見書」など4件は緑風会や公明党の反対で否決されました。

教育審議会の意向も無視

教育委員会は04年に「これからの泉南市の教育のあり方について」教育問題審議会に諮問しました。

教育問題審議会は「次世代を担う子ども達の教育・保育の施策を考えるときに、財政難を理由に統廃合があつてはならない。行財政改革の対象にすること自体が問題である」としています。しかし教育委員会の責任者である教育長

さわやかバス(コミバス)

便数増

昨年、さわやかバスは便数もコースも増えました。しかし新方面は1便と2便の間が3時間以上あき、山方面は最終便が3時前とはやくなつたため不便になつていきます。共産党は、時刻表の改善を求めてきました。4月からの新方面と山方面コースの増便が検討されています。

は、自ら諮問した審議会の答申と全く反対の幼稚園の廃園計画を、検討委員会の副会長として進めています。

「幼稚園は泉南市の宝」

02年統廃合計画は白紙撤回

市は、財政難を理由に02年にも市立幼稚園の統廃合案が提案されました。しかし市民や保護者は、「子どもたちや地域の宝である幼稚園の存続を求める署名」を集め、この計画を白紙撤回させました。

市は繰り返し借金財政の負担を子どもに押し付けていきます。



妊婦の無料健診

1回から3回へ

安心して出産できるように妊婦の健診は重要です。しかし高額な費用のため、健診を控える妊婦も少なくなく、社会的な問題になっています。共産党は「少子化時代、市の1回の無料健診を増やす必要がある」と質問、市長も「来年度から3回に増やす」と答弁。市民から大変喜ばれています。

市政への要望、暮らしのご相談はお気軽に日本共産党へ



わけ信子

信達市場116-230
TEL. FAX 482-5505
携帯090-3943-0168

<http://www.ashitanojcp.net/~wake/>



大森和夫

新家3524-2 TEL. FAX485-0620
(携帯)090-4288-3607
<http://www.ashitanojcp.net/~k.oomori/>
大森和夫で検索できます



松本かよ子

信達牧野332-2 TEL484-2216. FAX483-0651(携帯)090-1079-2883

HPは松本かよ子で検索できます



ないた政彦

一丘団地74-102
TEL. 482-6837
FAX. 482-6841
携帯090-2590-8423

総合福祉センター・市民体育館・市民球場・市立テニスコート 引き続き 市が運営

市民サービス低下につながる指定管理者制度（民営化）

共産党・緑風会・自由改革クラブの反対で

否決

総合福祉センター（あいびあ泉南）と市民体育館・市民球場・市立テニスコートの管理運営を民間にまかせる「指定管理者制度」条例が12月議会で否決されました。

党議員団は指定管理者制度導入は①500億円の借金を返済するための市民犠牲の「行革」の一つ。総合福祉センターや体育館などの経費七二〇〇万円が削減され、市民サービスの低下をまねく。②指定管理者制度より施設の耐震化や雨漏り等の改修をさ

きに行うべきである。

矛盾を深める 賛成派

共産党は基本的に指定管理者制度に反対です。一方、他の会派は、保育所の指定管理制度にも賛成し、指定管理者制度賛成派です。

しかし、緑風会と新自由改革クラブは今回、「指定管理者に地元業者が採用されていない」という理由で共産党とともに反対しました。

指定管理者に賛成した議員

成田・松本・大森・和氣（共産党）
堀口・東・市道・梶本（緑風会）
巴里・森（自由改革クラブ）

指定管理者に賛成した議員

井原・竹田・中尾・原（公明党）
谷・真砂・木下（拓進クラブ）

退席議員

北出（緑風会）
敬称略



市の施設から 解放同盟の事務所 退去へ

泉南市は部落解放同盟に対し「人権ふれあいセンター」にある事務所の移転を求めてきました。しかし、解放同盟は「引越しが見当たらない」などの理由で1年以上、退去していません。党議員団は大阪市や八尾市のように期限を決めて退去を求めよう、主張してきました。今議会、党議員の質問に「9月をめどに移転」する計画であることを明らかにしました。

市公用バスは廃止・市民に「ガマン」押し付け 市長公用車は490万円（5年間リース）で導入

向井市長は、借金財政のなかで市民の暮らしを切り捨てながら、07年より市長公用車をリース（費用は年間98万円、5年間490万円）しました。一方、市民や各種団体が利用してきた市公用バスを廃止しました。

党議員団は、「湯沢市や陸前高田市のように市長公用車を廃

止している市もある。市長公用車の導入はひかえてでも、市民の利用の多い市公用バスを残すべきである」と質問しました。市は「市公用バスの復活はしない」と答えました。



鳴滝第一小と鳴滝第二小を統合

樽井小・信達小校区は調整区を設けて過密解消へ

樽井小4分割中止に

樽井小の過密解消のため04年度から校区再編計画が提案されました。しかし住民合意に至らず、06年に再度、教育問題審議会が立ち上げられ、校区再編計画の議論が続けられてきました。

第8回の教育問題審議会では会長試案の校区再編案が示され、第9回の審議会でも各地区やPTAの意見を聞き、新たに調整区を設けた会長試案が提案され、反対なく了承されました。

会長試案の内容

- (1) 樽井小の4分割案は中止する
- (2) 鳴滝第一小と鳴滝第二小は統合する。
- (3) 信達小校区のうち
 - ・大苗代地域は一丘小へ通学できる調整区にする。
 - ・国道26号線から海側、信達樽井線の大阪側は鳴滝第二小へ通学できる調整区とする。
- (4) 男里浜地区は、雄信小と樽井小のどちらかに通学できる調整区とする。

今後の予定

08年3月号広報に会長試案を掲載し、パブリックコメントにより市民から意見を聞く。4月までに審議会の校区再編成案を決定し、今後3年間で再編する計画。

小学校区再編成案

共産党は

校区再編は、PTAや教職員、地域住民の声をよく聞き、住民合意で進めるように教育委員会に要望してきました。